

事務連絡
令和6年2月1日

各 国 公 私 立 大 学
各 国 公 私 立 高 等 専 門 学 校
各 都 道 府 県 専 修 学 校 各 種 学 校 主 管 課
各 都 道 府 県 教 育 委 員 会 専 修 学 校 各 種 学 校 主 管 課
厚 生 労 働 省 医 政 局 医 療 経 営 支 援 課
厚 生 労 働 省 社 会 ・ 擁 護 局 障 害 保 健 福 祉 部 企 画 課

御中

文 部 科 学 省
総 合 教 育 政 策 局 生 涯 学 習 推 進 課
高 等 教 育 局 参 事 官 (国 際 担 当)

韓国の釜山広域市の野生いのししにおけるアフリカ豚熱の感染確認に伴う
動物検疫の徹底について（協力依頼）

標題に関して、別添のとおり農林水産省より注意喚起がまいりました。

本件は、韓国において、先月捕獲された釜山広域市の野生いのししにアフリカ豚熱の感染が確認され、本病の侵入が危惧されることから、動物検疫の徹底について所管の各大学等に対して周知をおこなうものであります。

動物検疫所では、特に韓国・釜山を中心とするアジア諸国からの入国者に対する畜産物の持込み禁止に関する広報、靴底消毒、携帯品及び国際郵便物の検査等を強化するとともに、各地で検疫広報キャンペーン等の啓発活動を行うこととしており、引き続き家畜の伝染性疾病や植物の病害虫の侵入防止に係る取組について、周知の御協力をお願いするものです。

つきましては、農林水産省からの事務連絡の内容について御確認いただくとともに、外国人留学生等に対して下記の内容を周知いただきますようお願いいたします。なお、関連情報ホームページにおいても、多言語対応のパンフレット等が掲載されておりますので、周知の際に御活用下さい。

各都道府県におかれては所轄の専修学校及び各種学校（以下「専門学校等」という。）に対して、各都道府県教育委員会におかれては所管の専門学校等に対して、国立大学法人におかれてはその設置する専修学校に対して、厚生労働省におかれては所管の専修学校に対して、周知されるようお願いいたします。

<本件連絡先>

（専門学校について）

文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室
T E L : 03-5253-4111 （内線 2915）

（大学・短期大学・高等専門学校について）

文部科学省高等教育局参事官（国際担当）付留学生交流室
T E L : 03-5253-4111 （内線 3360、2518）

事務連絡
令和6年1月30日

文部科学省
総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室長
高等教育局参事官（国際担当）付留学生交流室長

農林水産省消費・安全局
動物衛生課国際衛生対策室長

韓国の釜山広域市の野生いのししにおけるアフリカ豚熱の感染確認に伴う
動物検疫の徹底について（協力依頼）

家畜の重大な伝染病であるアフリカ豚熱（ASF）や口蹄疫の侵入防止にあたり、関係省庁の皆様には多大なる御協力をいただいていることに改めて感謝申し上げます。

今般、韓国当局から、本年1月14日に捕獲された釜山広域市の野生いのししにおいて、ASFの感染が確認された旨の公表がありました。釜山広域市におけるASFの感染確認の報告は、昨年12月21日以来であり、当該野生いのししの捕獲地点は、日本への航路があるフェリーのふ頭とも距離が近いことから、我が国への本病の侵入リスクが極めて高い状況にあると考えられます。

韓国は地理的にも日本に近いだけでなく、韓国から日本各地への地方路線の復便・増便等の影響により、韓国からの訪日旅客数は昨年12月末時点で2019年同月比の300%を超えている状況です。また、動物検疫所における輸入禁止品の摘発においても、韓国由来の畜産物の摘発事例が増加しています。加えて、本年2月10日からは、中国、韓国等における旧正月の大型連休である春節が控えており、人や物の動きが一層活発になることが予想されます。

こうした状況を踏まえ、動物検疫所においても、特に釜山を中心とするアジア各地からの入国者に対する畜産物の持込み禁止に関する広報、靴底消毒、携帯品及び国際郵便物の検査等を強化するとともに、各地で検疫広報キャンペーン等の啓発活動を行うこととしています。

貴省におかれましては、引き続き、家畜の伝染病の侵入防止に係る取組に御協力いただくとともに、下記ウェブサイトの情報や別添のリーフレットを参照いただき、外国人留学生に対する周知及び注意喚起に御協力いただきますようお願いいたします。

記

○動物検疫に関するウェブサイト

「輸入動物検疫等に係るFAQ」

<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/FAQaboutAnimalQuarantine.pdf>

「家畜の伝染性疾病の侵入を防止するために～海外へ旅行される方へのお願い～」

<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/mizugiwa.html>

「肉製品などのおみやげについて（持ち込み）」

<https://www.maff.go.jp/aqs/tetuzuki/product/aq2.html>

「海外からの旅行者の皆様へ」「登山者・キャンパーや山林内で作業する皆さまへ」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/consumer.html>

「maffchannel（動画）【アフリカ豚熱】家畜伝染病は人が無意識に運んでいる？」

<https://www.youtube.com/watch?v=j5pgEICDyMs>

以上

家畜の伝染病の 侵入防止への 協力をお願い



今、世界では**アフリカ豚熱**と**口蹄疫**という家畜の伝染病のまん延が大きな問題となっています。これらは、肉製品や衣服、靴などを介して感染拡大します。これらが日本に侵入すれば、畜産物の安定供給に深刻な悪影響を与えるおそれがあります。国内への侵入を防ぐため、皆様の協力が必要です。

01 アフリカ豚熱、口蹄疫とは

アフリカ豚熱 (ASF)



特性

- 致死率はほぼ100%（甚急性型、急性型の場合）
- ウイルスは長期間にわたって環境中に生存（冷凍なら**1,000日**以上も）
 - pH4~11でも、血液や糞便中でも、豚肉や加工品（塩漬ハム等）の中でも生存できる

予防・治療

有効な治療法や予防法はない、ワクチンはない

損害

中華人民共和国で死亡・殺処分により飼養頭数が4割減り、豚肉価格が2倍以上に（2019年の事例）

口蹄疫 (FMD)



特性

- 口や蹄にできた水疱が痛くてエサを食べなくなり、産業動物としての価値が著しく低下
- ウイルスの感染力が極めて強い
 - 空気感染する（風に乗って**60km**以上離れた農場に移った例も）
 - 豚1頭が1日に排出するウイルス量は牛を最大**1,000万頭**感染させる量に相当

予防・治療

有効な治療法はない、ワクチンはあるが感染自体は防げない

損害

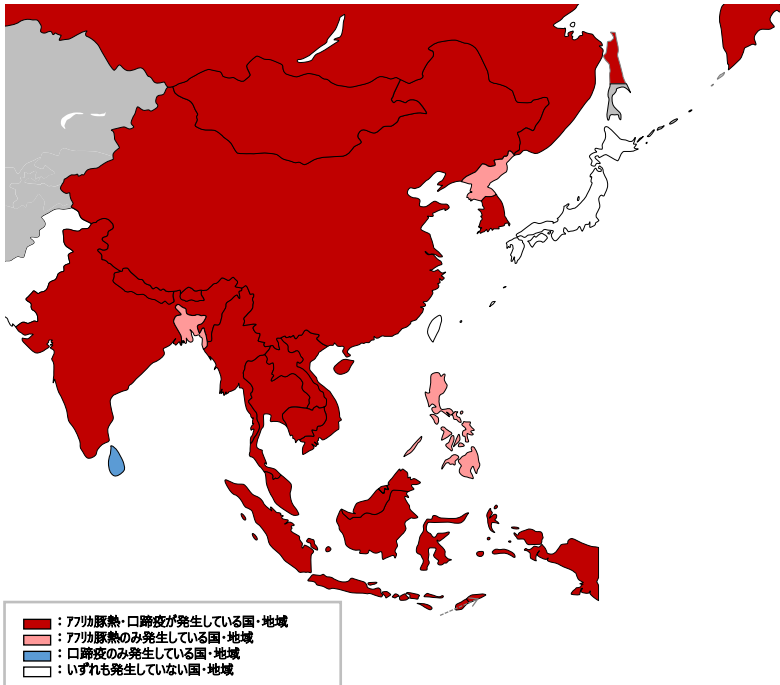
過去に国内で30万頭の牛・豚を殺処分し、2,350億円の被害（2010年の発生に関する宮崎県の試算、関連産業含む）

※ いずれの病気も人への感染の心配はない注

注：海外では口蹄疫ウイルスに極めて濃厚に接して感染した事例がごくまれに報告されるが、通常の生活の中で人に感染することはない。万が一感染した場合は軽い発熱や口内炎になる程度で速やかに回復し、死亡例はない。

02 アジアでの発生状況

- アフリカ豚熱は、2018年に中国に侵入後、**アジア各国に拡大**。
 - 口蹄疫は、**多くの国で継続的に発生**。
 - **いずれの病気も発生していないのは日本や台湾などごく限られた国・地域※**。
- ※ 日本や台湾では過去に口蹄疫が発生したことがあるが、その後清浄化している。



2024年1月10日時点
 出典：WOAH、各国のウェブサイト等
 注1：本資料における「発生」はWOAHに報告されたもの
 注2：初発生年はWOAHに発生が報告された年
 注3：口蹄疫発生国・地域は2021年以降で、括弧内は発生数

アフリカ豚熱の初発生年

国・地域名	初発生年
中国	2018年
香港、モンゴル、北朝鮮、韓国、ベトナム ラオス、カンボジア、フィリピン、ミャンマー インドネシア、東ティモール	2019年
インド	2020年
マレーシア、タイ、ブータン	2021年
ネパール	2022年
シンガポール、バングラデシュ	2023年

口蹄疫発生国・地域

国・地域名	発生年
中国(2)、ロシア(1)、ベトナム(28) カンボジア(41)、マレーシア(21)、タイ(47) インド(105)、ブータン(24)、ネパール(40) モンゴル(102)、スリランカ(36)	2021年
中国(1)、カンボジア(24)、タイ(108) マレーシア(28)、インドネシア(不明) インド(103)、ブータン(3)、ネパール(66) モンゴル(3)、スリランカ(57)	2022年
中国(4)、韓国(11)、ネパール(15) カンボジア(3)、マレーシア(7) インドネシア(不明)	2023年

注：検査体制や、まん延により報告が十分でない場合やワクチンにより発生が見えにくく汚染状況と発生数が一致していない場合がある。

03 侵入を防ぐためにできること

1 海外から肉の入った食品を持ち込まない

- 感染した肉を**動物が食べる**と感染
- 不法持込された肉製品から**生きたアフリカ豚熱ウイルス**を発見

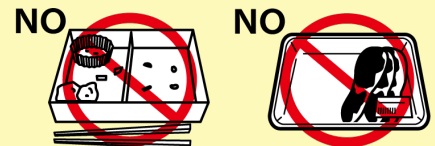
持込禁止



2 野外に肉の入った食品を捨てない

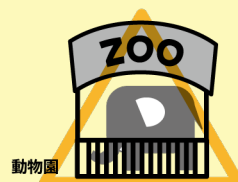
- ハイキングのお弁当やバーベキューの**食べ残し**、**ごみ**からも感染
- アフリカ豚熱に感染した肉の入っていた**トレー**を**イノシシ**が**舐めた**だけで感染
- 海外では**野生イノシシ**でアフリカ豚熱が**まん延**し、根絶が困難に

野外放置禁止



3 帰国後1週間は動物に近づかない

- **服や靴**についた**ウイルス**を介しても感染



가축 전염병의 침입 방지에 대한 협력 요청



지금, 세계에서는 **아프리카돼지열병**과 **구제역**이라는 가축 전염병의 만연이 큰 문제가 되고 있습니다. 이러한 것들은, **육제품과 의류, 신발 등을 통해 감염 확산**됩니다. 이러한 것들이 일본으로 침입하면, **축산물의 안전 공급에 심각한 악영향**을 미칠 우려가 있습니다. 일본으로의 침입을 방지하기 위해서는 여러분의 협조가 필요합니다.

±á 아프리카돼지열병, 구제역이란

아프리카돼지열병 (ASF)

- 특 성** 100%에 가까운 치사율 (급급형, 급성형의 경우)
바이러스는 자연환경에서 장기간 생존 (냉동은 **1,000일** 이상도)
• pH4~11에서도, 혈액과 분변중에서도, 돼지고기와 가공품(염장 햄 등)에서도 생존 가능
- 예 방 · 치 료** 유효한 치료방법과 예방법은 없으며, 백신도 없음
- 손 해** 중화인민공화국에서 사망·살처분에 의한 사육두수가 40% 감소하여, 돼지고기 가격이 2배 이상 상승(2019년 사례)

구제역 (FMD)

- 특 성** 입과 발굽에 생긴 수포가 통증을 유발하여 먹이를 먹지 않게 되며, 산업동물로서의 가치가 현저히 저하
바이러스 감염력이 매우 강함
• 공기중 감염(바람을 타고 **60km** 이상 떨어진 농장으로 이동한 사례도)
• 돼지 1마리가 하루에 배출하는 바이러스양은 소를 최대 **1,000만 마리** 감염시키는 양에 필적
- 예 방 · 치 료** 유효한 치료 방법이 없으며, 백신은 있으나 감염 자체는 막을 수 없음
- 손 해** 과거에 국내에서 30만 마리의 소·돼지를 살처분하여, 2,350억 엔의 피해 발생 (2010년 발생에 관한 미야자키현의 시산, 관련산업을 포함)

※ 어느 질병도 사람에게 대한 감염의 염려는 없음(주)

(주) : 해외에서는 구제역 바이러스에 매우 밀접 접촉하여 감염된 사례가 극히 드물게 보고되고 있으나, 통상적인 생활 속에서 사람에게 감염되는 일은 없음. 만일 감염된 경우에는 가벼운 발열이나 구내염이 생기는 정도로 빠르게 회복되며 사망한 사례는 없음.

春节

时去国外的旅客，请注意！

肉制品

禁止带入日本 肉製品の日本への持込禁止

如有违法行为，
必处罚三年以下徒刑或
300万日元以下罚款。

輸入検査を受けずに持ち込むと、
3年以下の懲役又は300万円以下の
罰金が科せられます。

禁止入境



详细是 Web

农林水产省 动物检疫所
農林水産省 動物検疫所

海外からの旅行者の皆様へ

アフリカ豚熱ウイルスの侵入防止にご協力をお願いします。



1

肉を含む食品は、
野外で絶対に捨てないでください！

2

靴の土は落としてから外出しましょう。



3

家畜がいる施設に
近寄らないようにしましょう。



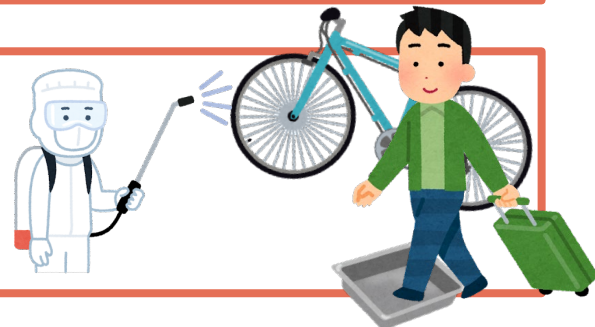
4

野生イノシシや罿・柵がある地点に
近寄らないようにしましょう。



5

消毒ポイントでは
指示に従ってください。

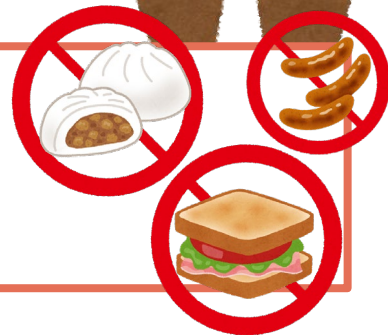
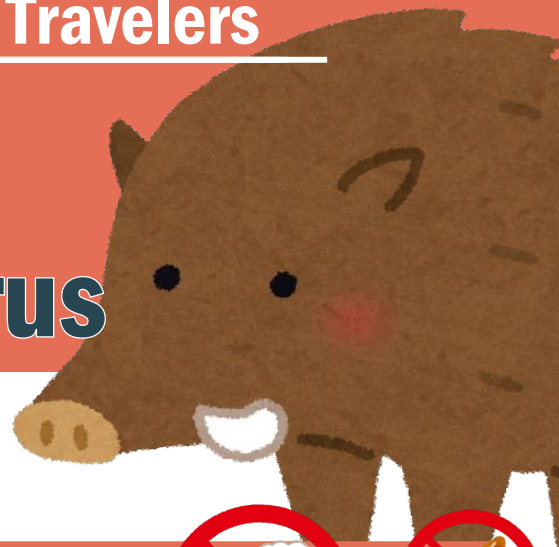


農林水産省 消費・安全局 動物衛生課

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/consumer.html>



Prevent the Entry of African Swine Fever Virus



1

Do not discard foods containing meat in nature!

2

Ensure your shoes are free of soil before exploring in nature.



3

Avoid proximity to livestock facilities.



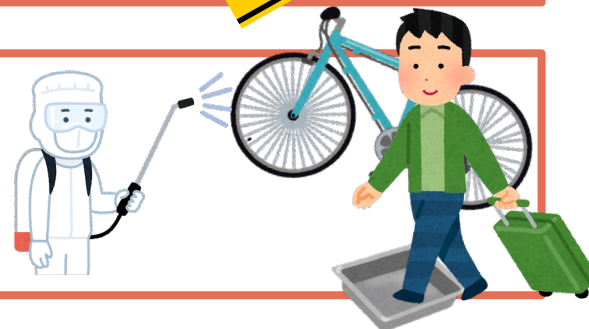
4

Steer clear of wild boars, traps, and fenced areas.



5

Follow instructions at disinfection points.



일본으로 입국하시는 여러분께!

아프리카돼지열병 바이러스 유입방지



1

고기를 포함한 식품은
절대 야외에서 버리지 마세요!

2

신발에 묻은 흙은 반드시 털고
난 후에 나가 주세요.



3

가축이 있는 축사 등에는
접근하지 않도록 해 주세요.



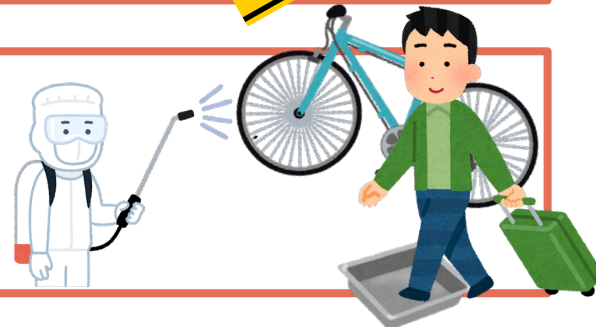
4

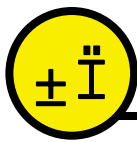
야생 멧돼지나 멧이나 울타리가
있는 곳에는
접근하지 않도록 해 주세요.



5

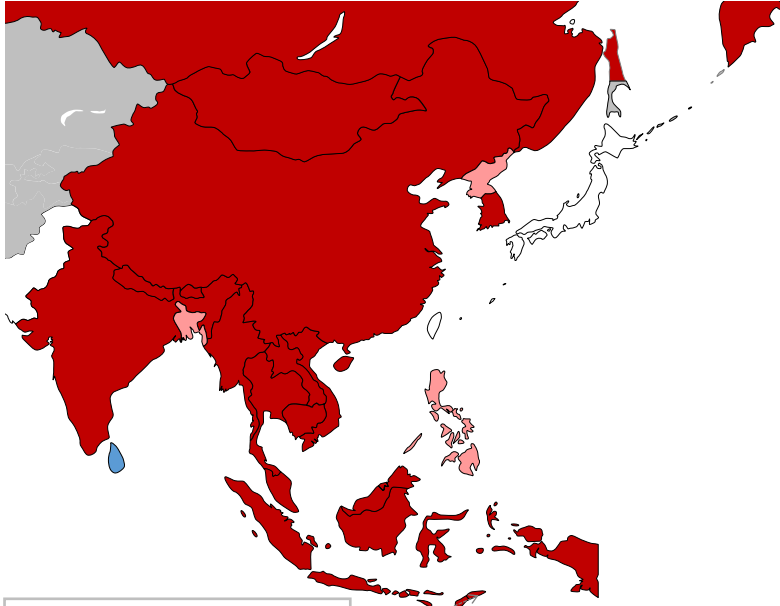
소독하는 곳에서는
지시에 따라 주세요.





아시아에서의 발생상황

- 아프리카돼지열병은 2018년에 중국에 침입 후, **아시아 각국으로 확대.**
 - 구제역은 **많은 국가에서 지속적으로 발생.**
 - 어느 질병도 발생하지 않은 나라는 **일본과 대만 등 극히 한정된 국가·지역**※.
- ※ 일본과 대만에서는 과거에 구제역이 발생한 적이 있으나, 이후에 청정화 됨.



■ 아프리카돼지열병·구제역이 발생한 국가·지역
 ■ 아프리카돼지열병만 발생한 국가·지역
 ■ 구제역만 발생한 국가·지역
 □ 어느 것도 발생하지 않은 국가·지역

2024년 1월 10일 시점
 출처 : WOA, 각국의 웹사이트 등
 주 1 : 본 자료에서 "발생"은 WOA에 보고된 것
 주 2 : 첫 발생연도는 WOA에 첫 발생이 보고된 해
 주 3 : 구제역 발생 국가·지역은 2021년 이후이며, 괄호 안은 발생 수

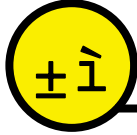
아프리카돼지열병의 첫 발생연도

국가·지역명	첫 발생연도
중국	2018년
홍콩, 몽골, 북한, 한국, 베트남, 라오스, 캄보디아, 필리핀, 미얀마, 인도네시아, 동티모르	2019년
인도	2020년
말레이시아, 태국, 부탄	2021년
네팔	2022년
싱가포르, 방글라데시	2023년

구제역 발생국가·지역

국가·지역명	발생연도
중국(2), 러시아(1), 베트남(28) 캄보디아(41), 말레이시아(21), 태국(47) 인도(105), 부탄(24), 네팔(40) 몽골(102), 스리랑카(36)	2021년
중국(1), 캄보디아(24), 태국(108) 말레이시아(28), 인도네시아(불명) 인도(103), 부탄(3), 네팔(66) 몽골(3), 스리랑카(57)	2022년
중국(4), 한국(11), 네팔(15) 캄보디아(3), 말레이시아(7) 인도네시아(불명)	2023년

주 : 조사체제와 만연에 의해 보고가 충분하지 않은 경우나 백신에 의해 발생이 잘 보이지 않고 오염 상황과 발생 수가 일치하지 않는 경우가 있음.



침입을 막기 위해 할 수 있는 것

ⅰ 해외에서 육류가 들어간 식품을 반입하지 않기

반입금지

- 감염된 육류를 **동물이 먹을 경우** 감염
- 불법으로 반입된 육제품에서 **살아 있는 돼지열병바이러스**를 발견



ⅱ 야외에 고기가 들어간 식품 안 버리기

야외방치금지

- 도시락과 바비큐 등의 **잔반, 쓰레기**에서도 감염
- 아프리카돼지열병에 감염된 고기가 들어간 **그릇류를 멧돼지가 핥는 것만으로도** 감염
- 해외에서는 **야생 멧돼지로 인한 아프리카돼지열병이 만연하고 있으며**, 근절이 곤란



ⅲ 귀국후 1 주일은 동물에게 접근하지 않기

- **옷이나 신발에 묻은 바이러스**를 통해서도 감염

